

## 矢祭子ども司書を目指す皆さんへ

皆さん、今日という日は、皆さんの小学校生活六年間の中で、ふだんの学習とは違う、特別な意味のある経験をする日々のはじまりになると思います。

特別な意味というのは、教科書に沿って、国語や算数や理科の勉強をして、いろいろな知識を覚えるのとは違う学びをするという意味です。では、どのような学びでしょうか。

図書館について、いろいろと学びますね。本はどのように分類されて並べられているかとか、県立図書館のように大きな図書館になると、想像したこともないほどたくさん本があり、難しい専門の書もそろえられているとか、本の貸し出しの仕事や表紙などが傷んだ本を直す仕事はどのようにするのかとか、いろいろなことを実際に図書館の中で学ぶのです。

そのようなことを学ぶうちに、皆さんはきっと、本に対してこれまでと違った興味を抱くようになり、いろいろな本を読んでみたくなるにちがいありません。本に対する愛着の心が強くなるということです。

そればかりではありません。

川や田んぼのほつりを歩いて、俳句を作るという楽しい講座の時間もあるでしょう。そういう学びをすると、図書館にある江戸時代の芭蕉の俳句などに対しても、深く理解できるようになるでしょう。特に大切なのは、故郷矢祭町の風景や山や川や木々や草花に対して、新しい発見と言えるような気づきが生まれ、郷土愛がしっかりと心に刻まれることです。

このように、本に対する愛着心が強まり、郷土愛が深まるという経験をするのが、子ども司書講座の学びをするうちに生まれるにちがいありません。小学生時代にそういう経験をすることができるのは、すばらしいことです。さあ、これから始まる講座に胸をふくらませて臨んでください。

令和元年五月二十五日

ノンフィクション作家

柳田 邦男